学校運営協議会の運営状況について

		開催回数	協議及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成19年度指定	東浅川小学校	11回	①学習ボランティアとして地域住民と共に東浅川タイムを強化して実施した。 ②夏楽校の実施。 ※「東浅川タイム」基礎基本の定着と学習習慣づくりを目指す朝学習。 ※「夏楽校」公開授業の総合的な学習の時間で行う体験学習。	①東浅川タイムでの役割は2～4年生では定着しつつあり、児童の基礎基本の定着と学習習慣づくりを図れた。 ②夏楽校では、親子の遊び、車内マナー、車いす、AEDの使い方、すいとん作り等児童にいろいろな体験をさせることができた。	①学習ボランティアの人数が増えたことで、活動を充実させるための体制づくりが必要である。 ②夏楽校の内容を、児童の体験学習への興味、関心をより高めるようにする必要がある。	①いろいろな授業に学習ボランティアが登録されているので、その活動を観察し、充実させるための検討を行う。 ②夏楽校の各学年のテーマが効果的に進められたか検証し、必要な見直しを行う。
	第六中学校	10回	①保護者・地域の学校理解促進。 ②「真の学力」向上5カ年計画について。	①学校関係者評価では学校教育への認知度が向上し、85％超を達成。 ②「真の学力」向上5カ年計画推進のため、教科・学年・分掌ごとのグランドデザインの策定やノーチャイム制の導入、校則の見直し等、具体的実践の支援を行うことができた。	①各行事への協力体制はPTA組織等を通じて整っているが、評価（成績面）等については、保護者と教職員との意識に大きな差異があり、共通認識の確立が急務。 ①町会等の組織が確立しているため、学校への協力体制は整っているが、教育活動への理解は高くないため、広報活動の拡大が課題。 ②「真の学力」向上5カ年計画の取組の必要性が認知されてきたが、組織的な活動の企画が必要。	①保護者に向けて保護者会、各行事、学校だより等による広報、啓発活動（啓発の視点での編集）。 ①学校行事への地域参加者へのアンケート調査を実施して意見聴取、理解促進。 ②教科学習での話し合い活動、作業的活動を通して、生徒の主体性を伸長。
	宮上中学校	12回	①生徒の状況や考えを直接聞く機会として、生徒会との懇談会を実施。 ②地域に学校行事への協力と参加を呼びかけた。特に土曜学習教室では、運営をはじめ、PTA学習支援部との連携、学習支援を行うボランティアの紹介を行った。 ③地域の各種行事に部活動単位で参加を促した。	①生徒会との懇談会では、様々な内容を意見交換できた。 ②土曜学習教室ではPTAやボランティアから多数の協力があり、参加生徒も増え、取組が定着した。 ③地域行事において、宮上中学校の生徒の参加する姿が見られ、地域の中で学校への理解が深まった。	①生徒会との懇談会を通じて地域活動を含めて、具体的な活動へと結びつけること。 ②土曜学習教室については、今後継続的に取り組む体制を築くことが課題である。 ③地域行事への参加が部活動単位だけでなく、多くの生徒に浸透させること。	①生徒会との懇談会は継続して年２回程度実施し、生徒会を通じた地域活動の呼びかけへとつなげたい。 ②広報活動を工夫する。 ②地域の中で積極的に行事に関わっている人の掘り起し。 ②土曜学習教室については、さらに地域への周知と協力者の掘り起しを行う。 ③引き続き、地域行事への部活動単位での参加の他、広く生徒全体に周知する。そのための広報を充実させる。

		開催回数	協議及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成20年度指定	陶鎔小学校	11回	①PTA総会時に学校運営協議会の説明と、「TOYO　ACTION5」の協力を呼び掛ける。 ②6月と12月に教員16名と学校運営協議会委員との意見交換会を実施。 ※「TOYO　ACTION5」基本的生活習慣・学習習慣の定着を目指して平成25年度に策定。	①「TOYO　ACTION5」の周知に努め、朝食を食べている児童や学校のことを話す児童は増えた。学力に関する関心は高まりつつあり、学校公開に毎回700人の参加がある。 ②意見交換会により、学力向上の取り組みの評価と、学校評価書の実態把握に活用した。	①「TOYO　ACTION5」は浸透しているが、児童の睡眠時間で課題が見られ、また学習用具の忘れ物も減っていない。 ①「TOYO　ACTION5」の周知及び学校教育をバックアップする体制作り。 ②学運協に協力する教職員が固定されている。	①「TOYO　ACTION5」の改定を行い、さらに保護者・地域に浸透を図る。 ②引き続き意見交換会を年数回実施し、地域運営学校の教職員であるという自覚を促していく。
	浅川小学校	11回	①各学期の初めに中学校と合同で朝のあいさつ運動を行った。 ②ボランティアを活用しての算数、家庭科、書道での授業補助や野菜作り、落ち葉掃きなどの学校支援。	①あいさつ運動や安全ボランティアの活動により、地域住民と子どもたちが顔見知りになり、信頼関係も生まれた。 ②多数のボランティアの協力により、児童へのきめ細やかな対応が図れた。	①②放課後子ども教室など活発であるが、もう一歩地域をまきこんだ活動が必要である。	①②地域と学校との架け橋の役割をする意味でも、学校の求めるものを精査し、ボランティア支援を行っていく。
	元八王子中学校	12回	①地域ボランティアの発掘について、相談を行い、人材を確保し、学習支援に充てた。 ②防災活動の地域との連携を図る方法を協議した。	①地域人材を3名見つけ、モーニングスクールで活用することで、生徒の数学の補習学習がスムーズに行え、参加者の基礎学力の定着が図れた。 ②集団下校訓練に地域の方約20名が参加。	①学力向上に向けて、保護者への啓発活動が課題である。 ②災害対策を含め、学校と地域との共通理解を深めること。	①学校運営協議会便りを発行し、保護者への啓発を行う。 ②集団下校訓練を強化する。
	城山中学校	10回	①職場体験現場の視察。 ②地域防災訓練の実施。	①職場体験先に校長と会長、副会長が同行し2日間で14か所の事業所、店舗を訪問し責任者に御礼の挨拶を行ない、職場体験学習の地域の協力が得られた。 ②地域防災訓練に生徒が参加することで、地域との絆が深まった。	①職場体験先の新規開拓。 ②地域防災訓練への生徒の参加者が少ない。	①学校のニーズを把握し、新しい職場体験先を開拓する。 ②学校と連携して地域防災の大切さを生徒に理解させるとともに、参加を呼びかけ今後も継続する。
平成21年度	椚田小学校	11回	①学校行事等への学習補助について。 ②学校安全ボランティアの啓蒙及び研修会の実施。	①1年生の1学期当初における給食補助、プールの見守り、支援を要する児童の学習補助など、日常の教育活動での関わりが増え、地域住民の参加率が増えた。 ②学校安全ボランティアを継続し、保護者・地域住民に参加を呼び掛けたところ、6名増となった。	①さらに積極的なアピールをするために、広報誌「椚小コミュニティ」の紙面内容を充実する必要がある。 ②新しいボランティア人材の更なる発掘。	①②学校安全ボランティアだけでなく、種々のボランティアを、保護者・地域住民から募り、地域と学校の一体化を、教育活動を通して具体化する。

		開催回数	協議及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成21年度	中山小学校	12回	①三校合同学校運営協議会実施。 ②体験学習での児童と地域の人々との交流。	①日頃から3校で連携・協力することにより、「共に育てる」という意識が高まった。 ②ゲストティーチャーやボランティアの地域住民との交流を通して、児童の感謝の気持ちが養われた。	①三校（中山小、高嶺小、中山中）の合同学校運営協議会の充実が必要。 ②児童の地域への関心をさらに高める。	①三校合同学校運営協議会で、三校の風通しを良くし、連携を強化する。 ②保護者、地域住民の支援があることを児童に意識させ、地域への帰属意識をさらに高める。
	宮上小学校	11回	①学校便り「みやかみ」に毎回、学校運営協議会で協議された内容についての報告を掲載した。 ②ちょこサポ（保護者ボランティア）における授業サポートの実施及び、学校行事（体力測定、運動会、学習発表会、児童文化研究発表会等）への協力を行った。	①協議会活動の啓発活動における反響は、期待する程大きなものではなかったが、前委員や地域の方からの傍聴も僅かながら得られた。 ②ちょこサポを通じての通常学級の授業の手伝い（読み聴かせ、授業見守り等）を行うことで、児童へのきめ細やかな対応が実現出来た。	①学校運営協議会の活動を啓発するために更なる情報発信の方法を再考する必要がある。 ②学校のニーズに合わせたちょこサポの実施。	①学校便り「みやかみ」に様々な視点（保護者、地域、学識経験者）から協議会の活動内容を情報開示する。 ②ちょこサポを通じ、児童および教職員の必要性と合致した支援を継続して行う。
	下柚木小学校	11回	①学校支援システム「絆プロジェクト」を通じた学校支援ボランティアの拡大について ②新しい保護者組織づくりについて	①「絆プロジェクト」の活動により、学校コーディネーターを中心とした児童の学習支援の協力者を募ることができ、児童の学校生活を保護者や地域の人が見守る体制ができ、児童にとっては親近感が高まった。 ②「絆プロジェクト」の取組を通じて、保護者同士を結び付ける機会を設けることができた。	①PTA組織がなくなった状況下において、地区委員会、青少年対策地区委員会（担当者）だけが残されており、今後、組織の拠り所を構築する必要がある。 ②保護者ボランティアとして協力する方々が特定されており、更なる協力者の発掘が必要である。	①②年3回、通常の学運協を拡大する形で会合を開き、「放課後見守り委員会」「地区班担当委員会」「習熟度別委員会」「学校図書館推進委員会」を実施することにより、保護者・地域の組織づくりを進める。
	第一中学校	11回	①第2回総合防災訓練を実施した。実行委員会を組織し、学運協を中心にPTA、青少対、消防署、消防団、近隣小、市職員等と連携して学年毎に体験を行わせた。 ②家庭学習状況調査を行い、本校生徒の家庭学習の状況を把握し、課題を検討した。 ③道徳授業地区公開講座及び普段の道徳授業を保護者や地域住民に公開し、授業の様子や生徒の状況について意見交換を行った。	①学運協を中心に総合防災訓練を実施し、PTA並びに地域関連団体との連携をより一層深めることができた。さらに、生徒の防災や危機回避に対する意識を高められた。 ②教育活動アンケートでの家庭学習の経年データ及び新たに始めた家庭学習状況調査を比較分析して、最新の学習傾向を把握できた。 ③生徒の学校生活の状態を授業見学や教員との懇談などから把握できた。そして、生活指導方針などに提言を行った。	①総合防災訓練は、「一中の防災を考える会」を核としているが、組織及び役割分担をさらに明確にして実施していくことが課題である。 ②家庭学習は、生徒アンケートでは時間の増加が見られたが、保護者からは否定的な意見も少なくなかった。家庭学習とその成果をさらに検証していくことが課題である。 ③生活指導の方針や具体的な指導方法を今後も保護者や地域に示し、意見交換を行っていくことが課題である。	①第3回総合防災訓練を平成27年9月26日(土)に実施する。本訓練を通し、生徒・保護者・地域住民や関係団体及び教職員の連携を拡大させる。 ②③教育活動アンケートを実施し、学校生活での諸課題について分析と提言を行う。そのために、アンケート結果の公表及び保護者や地域住民との意見交換を行う。特に、学運協委員とPTAとの懇談会を計画する。

		開催回数	協議及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成21年度	陵南中学校	11回	①道徳授業地区公開講座におけるアシスタントティーチャーを学運協委員が行った。 ②職場訪問、職場体験先訪問への協力。	①アシスタントティーチャーを行うことによって保護者そして地域へ地域運営学校の啓発となっている。 ②地域の学校への信頼感が高まるとともに、学運協委員と生徒が良好な関係を持つことができた。	①保護者の来校数が期待よりも少ないことが課題である。 ②職場訪問、職場体験先訪問の継続実施。	①学校に保護者が来校しやすい取組みを検討する。 ②職場訪問、職場体験先訪問を継続実施するために、学運協委員の役割や分担を明確にし、効率よく実施する。
平成22年度	第七小学校	11回	①保護者からの相談窓口の設置。 ②放課後子ども教室の実施。	①相談窓口の設置により、子育ての悩みや負担感の軽減につながった。 ②保護者の強い要望である放課後子ども教室の実施により、協議会と保護者の連携、学校と保護者の連携が深まった。	①相談窓口の拡大。 ②放課後子ども教室の継続。	①相談窓口の充実を図る。 ②放課後子ども教室の運営の在り方を探り、発展を目指す。
	館小中学校	11回	①各児童・生徒の家庭に発達段階に応じて、4種類の「基本的生活習慣・家庭学習のすすめ」を作成し、掲示できるようにして配布した。	①家庭学習習慣化やよい生活リズムを身に付けようとする意識が高まっている。	①家庭学習への取組の定着が不十分。	①保護者会や学校通信、HPを利用して、家庭学習、生活リズムの習慣化を啓発するとともに、家庭学習について現状を洗い出し、生活リズム全体から考えてよいリズムが身に付くよう指導を工夫する。
	加住小中学校	11回	①スクールファーム、かすみふれあいコミュニティ、放課後子ども教室について、毎回の会議で確認した。	①スクールファーム、かすみふれあいコミュニティ、放課後子ども教室について、保護者や地域住民の参加者数は、年間延べ300人を超え、年間平均参加児童数も56人を数えた。	①学校支援ボランティアとして参加している保護者・地域住民が、固定化してしまっていること。	①学校運営協議会が中心になり、広くボランティアを募っていくとともに、学校支援部を設立する予定である。
	愛宕小学校	10回	①防災訓練の参加促進について、学校便りやHP、チラシ配布などで参加を呼びかける。 ②授業補助については説明会を教員と共に実施し、補助が入ることのできる時程について、学校コーディネーターから登録者へメールや手紙で随時配信。 ③図書整理・図書紹介等の説明会を開催し、活動内容を決めて実施。 ④放課後子ども教室推進委員会の運営。	①防災訓練の実施により、地域住民の防災意識が強化されつつある。 ②③授業ボランティアや図書ボランティアの活動により、学校への関心が高まるとともに、地域の教育力の発掘が徐々に進んだ。 ④放課後子ども教室において、地域住民が講座を実施し、子ども達に多くの大人と接する機会を持ち、多種多様な体験を提供できた。	①防災に関しては、マンション間の連携が大きな課題である。 ②③授業補助などについては、徐々に児童と係わる保護者の数が増えてきており多様な児童が在籍していることについての理解が深まりつつあるが、人材の発掘を拡大する必要がある。 ④放課後子ども教室の推進委員として継続的に活動できる人材の確保が必要である。	①青少対の定例会で各マンション自治会に繰り返し参加を呼びかけていく。 ②③今後も引き続き活動を継続、周知していくことで、地域の学校への関心を高め、人材発掘を進める。 ④放課後子ども教室の認知度を地域において上げる事により、関わる地域住民を増やしていく。
平成	浅川中学校	11回	①学習支援や学校図書館支援、行事支援、部活動支援などの生徒支援。 ②生徒会役員との交流会の実施。	①多くのボランティアが多方面にわたって活動し、教育活動の充実と生徒や教員との交流が深まった。 ②生徒会役員との交流会を行い、生徒の考えや要望など聞くことができた。	①保護者のボランティア登録が少なく、活動できる人材が固定されている。 ②生徒会の要望や願いにどのように応えていくか課題である。	①学校とボランティアとの打ち合わせの充実。 ②生徒会役員からの要望や願いについて検討。

		開催回数	協議及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
22年度	松木中学校	12回	①特別支援教育の推進。 ②生徒の学力向上。 ③学習教室実施（対象：3年生　期間：夏季休業中9日間・放課後10月～2月）。	①小中一貫教育の取り組みにより、小学校と連携した特別支援シートを作成し推進に向けて改善を図り、また「ありがとうの花を咲かせようキャンペーン」を実施し、小中だけでなく、地域と共に交流を図ることができた。 ②③夏季及び放課後学習教室を実施することで、生徒の基礎学力の定着に寄与した。	①小学校と連携し、特別支援教育や生活指導、情報教育の課題の解決に向けた具体策や活動が必要。 ②③夏季学習教室、放課後学習教室の円滑な運営。	①小中合同研修会の分科会を活用し、小中一貫教育の日常的な連携を推進する。 ②③放課後学習教室運営の役割分担を明確にし、さらなる活動の推進を図る。
平成23年度	長房小学校	11回	①子供祭り、焼き芋、餅つき、昔遊び、人形劇鑑賞会、地域盆踊り参加。 ②算数教室、川の学習、木の実を使った笛づくり、箏・太鼓練習、凧作り。 ③地域夏祭り、端午祭り、銀杏祭り。 ④長房ファームで野菜作り。	①各行事では、保護者・地域と連携した取組が行われた。保護者・地域・八王子レクリエーション協会等、大勢の人が地域運営学校の活動に関わることができた。学校への関心が高まった。 ②算数教室では、学生ボランティアに採点をしてもらい、基礎基本の定着を図る学習が進められた。 ③地域の祭りに、地域運営学校の店として出店した。広報活動にもなり、地域、保護者、学校のコミュニケーションの場となった。 ④長房ファームの活動が多くなり、野菜作りを通して、食育の学習をすることができた。	①②③④地域・保護者・学校との連携及びボランティアの確保、継続。	①②③学校のかかわりも増え、計画的に行事を行うことができた。さらに、学校・地域・保護者が連携した取組にする。 ④長房ファームでの各学年に応じた学習・取組及び計画的な食育の学習。
	柏木小学校	11回	①小中連携3校でのタウンミーティング「しゃべってみよう拡大版」を年間2回開催。 ②学校単独の「しゃべってみよう」を年間2回開催。 ③読書大会を実施。	①②「しゃべってみよう」の実施により、地域住民、保護者、教師の心のつながりがより強固になり、学校経営への参画意識も高まった。 ③年間50冊以上読破した児童が82%。	①②「しゃべってみよう」の参加者は真剣に、また意欲的に活動しているが、参加者が限られてきた。 ③年間数冊しか本を読まない児童もおり、二極化を早急に改善する必要がある。	①②「しゃべってみよう」の活動内容や参加している大人の声等を、学校HPやコミュニティスクール通信などで広く発信し、保護者や地域住民への啓発活動をさらに強化する。 ③徹底した読書量増加を実現するための新たな取り組みを企画する。

		開催回数	協議及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成23年度	南大沢小学校	10回	①小中連携3校でのタウンミーティング「しゃべってみよう拡大版」の開催。 ②おはようコミュニケーションデーの実施。 ③学校運営協議会通信の発行。	①「しゃべってみよう拡大版」により、南大沢地区の地域住民の学校教育に対する役割、学校の地域コミュニティに対する役割などを話し合い、南大沢地区の地域運営学校の在り方像についての共有化を図った。 ②毎月、第1水曜日は「おはようコミュニケーションデー」の活動日として児童生徒に定着しており、挨拶などを進んで行っている。児童会や学年でのあいさつ運動と連携し、児童の挨拶する習慣の定着につながった。 ③地域の人材を活用した教育活動を、HPを活用して広報したため、地域人材を活用した活動が増えた。児童も意欲的に活動し、身の回りの人への感謝の気持ちや人への接し方・言葉遣い等を実践的に身に付けた。	①「しゃべってみよう拡大版」への参加者層の拡大。 ②おはようコミュニケーションデーの発展的継続。 ③学校運営協議会の活動内容や主旨をひろめるために通信の発行の他、他の広報誌との連携が必要。	①③学校運営協議会の活動内容や趣旨を広めるため広報の工夫をし、学校行事と地域行事を掲載したコミュニティカレンダーを充実させる。 ②3校（南大沢中・柏木小・南大沢小）で話し合い、「おはようコミュニケーションデー」の参加者拡大を中心とした活性化を図る。
	松木小学校	12回	①保護者・地域ボランティアを活用（延べ2000人）して放課後学習教室や夏休み学習会、米つくり体験などを実施。 ②防犯教育の一環として、1年生ピーポくんウォークラリーを実施し、付添40名参加。交通安全教育も実施した。 ③1年生入学時の学校生活補助・給食補助ボランティア（4月75人）支援。	①ボランティア活動に保護者･地域が参加することで児童・教職員の実態を把握し、児童の教育における当事者意識が育つとともに学校との協力体制が構築できた。 ②登下校時の見守り、南大沢警察署との連携による交通安全、犯罪対策への強化につながった。 ③1年生入学時の学校生活・給食補助ボランティア活動で、下校時の安全確保や学校生活に早く慣れることができた。	①②③ボランティア活動が継続的かつ充実するように人材の確保、実働組織としての支援本部の設置が必要。	①②③実働組織としての支援本部の設置。
	長池小学校	12回	①あいさつ運動や地域祭り、地域清掃、しめ縄作りなどにより多くの児童が参加する方策を協議するとともに、保護者や地域に対して、「地域で子どもを育てる」ことを継続的に呼びかけた。 ②放課後子ども教室を、保護者の組織を中心として行った。	①比較的多くの子供たちが、様々な取り組みに参加していた。このことで、地域に対する愛着を育んでいる。 ②保護者の得意分野を生かした活動を行い、連携を強化した。	①参加者がより多くなるような周知方法が必要である。また、そのためにもより多くの保護者、地域への呼びかけが必要となる。 ②放課後子ども教室の運営者側としての人材を今後どう発掘していくかが課題である。	①保護者や地域に対して、日常的な呼びかけを増やしたり、学校ホームページを活用した周知方法の改善を行う。 ②保護者の負担が特定の人に集中しないやり方を策定する。

		開催回数	協議及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成23年度	南大沢中学校	11回	①小中連携3校でのタウンミーティング「しゃべってみよう拡大版」の開催。 ②地域に対して学校便りや地域運営学校の行事の案内を配布するなどの広報活動。 ③おはようコミュニケーションデーの実施。	①学校の教育活動を、毎回具体的に説明することで、学校の教育活動への理解が深まった。 ②学校便りの配布が始まり、地域・住民の方の学校の教育活動への関心が高まっている。 ③おはようコミュニケーションデーには部活を中心に比較的多くの生徒が参加した。	①「しゃべってみよう拡大版」への参加者層の拡大。 ②地域人材を活用した教育活動を行うなどについては、活用している部分もあるが、充実させることが必要。 ③地域の活動に参加する生徒が限られていることが課題。	①②「しゃべってみよう」の活動内容を、学校HPや学校便りなどで広く発信し、保護者や地域住民への啓発活動をさらに強化する。 ②地域・住民に対して、より学校の教育活動を知る機会を増やす。 ③おはようコミュニケーションデーについて、来年度も生徒の参加を促していく。
平成24年度	横山第一小学校	12回	①地域資源（人材、自然、施設）の発掘、活用を図り、地域と一体となった学校作りを進めるため、オータムキャンプやどんど焼きを実施。 ②安全ボランティア、学校図書館ボランティア、横一花の会等、各種ボランティア活動。	①オータムキャンプやどんど焼きの行事が定着化し、地域協力者や、町会長・自治会などから多くの協力を得ることができた。 ②学校運営協議会委員だけでなく、PTA、町会・自治会に働きかけ支援を得ることで、予定していた活動を全てやることができた。	①②イベント等への参加はするが、協力し共に作り上げていく意識はまだ弱い。参加することも一つの協力と捉えるとともに、定着しているイベントを中心に、学校の教育活動の中での活用を模索し、参画意識をもてるようにすることが課題である。	①②学校コーディネーターを中心に、各種ボランティア（安全ボランティア、学校図書館ボランティア、横一花の会等）の募集、連絡・調整等を行い、地域人材リストを作成し、活用の拡大を図る。
	上川口小学校	10回	①学習支援ボランティアの協力による読み聞かせ（年間28回）、サマースクール（6日間）などを実施。 ②学校コーディネーターを中心に地域ボランティアの人材を発掘した。 ③児童の地域行事への参加。	①②学習支援に関わるゲストティーチャーやボランティア数が大幅に増加し、その協力により児童の学習意欲の向上がみられた。 ③児童が地域行事等に参加することで、保護者や地域の方とのふれあいを通して、地域への愛着と愛校心が高まった。	①②児童と各種ボランティア団体とのより充実した交流（ふれあい給食、学習支援など）。 ③児童の地域行事への参加数増加。	①②家庭学習の習慣化と地域人材活用の推進。 ③年度末や年度当初に地域行事と学校行事の確認を行い、児童の参加を呼び掛ける。
	恩方中学校	9回	①議事録を毎回配布、また学校HPに掲載し、地域運営学校及び学校運営協議会の活動への理解を図った。 ②PTA運営委員会に学運協会長が参加し、保護者の意見や要望への理解を図った。	①②保護者アンケートの結果から、学校運営協議会・地域運営学校としての理解が浸透していることが確認された。	①②地域運営学校について、さらに多くの保護者・地域住民の理解を促進することが課題である。	①②地域運営学校についての理解をより浸透させるため、多くの生徒や保護者、地域住民が参加できる活動を模索していく。
	由木中学校	8回	①学力定着度調査の意識調査で、家庭学習の定着度を確認するとともに、家庭学習の必要性を生徒に理解させた。また、効果的な家庭学習について協議を行った。 ②学運協委員が年間3回授業見学を行い、個々の教員の状況を把握してアドバイスを行った。	①定期テスト前では、生徒の6割以上が2時間以上の学習をするようになった。平成24～26年度で見ると、着実に家庭学習時間が伸びてきた。 ②学運協委員のアドバイスにより授業改善が図れた。	①定期テスト前には十分な学習が必要なことを約1割程度の生徒がまだ理解できておらず、実行も乏しい。そうした生徒の意欲・関心を高めることが課題である。 ②委員と教員の懇談する機会を設定し、直接委員から指導・助言をもらえる場の設定。	①家庭学習の状況を定期テスト前だけではなく、テスト期間中も把握し、生徒の家庭学習の意識をさらに細かく把握する。 ②各学期に重点項目を決め、委員による授業観察を1回以上設け、その後に教員との懇談の機会を設定する。

		開催回数	協議及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成25年度	第二小学校	11回	①言語能力の向上をめざした課題解決学習 ②地域を含めた防災教育・防災体制の充実。	①自ら考え、表現する児童が増えてきた。 ②児童をはじめ地域住民・保護者の防災に対する意識が高まった。	①児童一人一人が自分の考えを表出し、主体的に問題解決ができるようにしていくこと。 ②防災に対する意識が高まってきてはいるが、まだまだ実践的な活動への参画が少ない。防災体制の整備では、地域からの支援が得られたが、まだ十分ではない。	①授業の中で、自分の考えを進んで表現し、主体的に問題解決ができるようにする。 ②実際に災害が起きた時の対応については今後も意見交換を含め防災訓練などに取り組むことが必要である。さらに、学校が避難所となった時の想定などについても検討し、地域と学校がどのような役割を果たしていくか考えていく。
	高倉小学校	11回	①地域運営学校の取組について学校便りや学校HPで発信を行った。 ②地域の人たちへのあいさつや礼儀などがきちんとできるよう「あいさつ運動」の取組を実施。	①発信は行ったが、あまり充実できなかった。 ②いろいろな大人と関わる経験を通して、児童の視野に広がりがでてきた。	①学校運営協議会の取組について、より発信をしていく必要がある。 ②あいさつ、コミュニケーションの面で、課題が多い。挨拶ができない、大人への態度、感謝の気持ち、謝罪等々、関わり合いの基礎をしっかりさせていく必要がある。	①「地域運営学校便り」を発行して周知するとともに、協力者を募るためのツールとして生かす。 ②「あいさつ運動」を地域・保護者・学校が一体となって取組み、児童の日常生活への定着を図る。
	高嶺小学校	11回	①放課後子ども教室で牛乳パックで作る絵はがき教室、古布から作る草履教室、陶芸教室の開催。	①放課後子ども教室と連携することによって、子供たちに豊かな体験をさせることができた。	①ボランティアで中心になって活動している地域住民が固定されており、その負担を軽減するためにも、学校、家庭、地域で組織的に取り組んでいけるようにすること。	①子どもたちの教育活動を充実させていくために、地域にボランティアの意義を説明し、幅広い人材確保を図る。
	ひよどり山中学校	10回	①地域運営学校としての特色ある活動を立案・実施し、保護者会や地域行事・諸会議等で周知を図った。 ②学力向上部として夏休みに5日間学習教室（国、数、英）を実施。全学年が参加した。	①学校評価アンケートや地域諸会議等の交流から保護者・教職員や青少対等地域に地域運営学校の活動が理解され協力関係が進んだ。 ②学習教室に参加した生徒が前年度から増加し、毎回40名前後の生徒の学習支援ができた。ボランティアが3～5名毎回協力参加し、生徒が質問しやすい環境で個別支援が進んだ。	①さらに多くの地域人材の活用、協力を得るために、授業や学校行事の参観案内・PRを一層活発に行い、実際に諸活動を見てもらうことで、理解、協力を促進していくことが課題である。 ②学習教室・支援等のボランティアを募集し協力を求め、多くの生徒が参加するには、より計画的に学習支援の予定を立案する必要がある。	①地域回覧の案内やリーフレットの発行の他、学校便り及びHPの充実を図り、保護者・地域の理解と協力を一層図っていく。 ②各種のボランティアをより多く募集・依頼し、日常的に教職員と連携・協力し、生徒と親しみ良好な関係・体制をさらに作っていく。
	由井中学校	8回	①防災支援部会で防災支援組織の構築を図り、研究を進めた。 ②防災講話の実施。	①防災講話・自治会別集団下校訓練の活動により、生徒の意識が高まり、生徒の動きに真剣さと具体的な問題点を明らかにする効果が現れた。 ②避難所運営受付訓練の活動により、生徒の防災への意識が高まった。	①②避難所運営へ向けた防災教育については、中学校としての基本的取組はできたが、各地域自治会との連携については具体的な進展を図る必要がある。	①②防災訓練の運営母体が中学校中心であるため、地域と連携して実施する方法を検討していく。

		開催回数	協議及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成25年度	中山中学校	11回	①「希望する進路の実現する学校」の具現化に向け、4つの部会ごとに学習支援や安全・安心などの具体的な支援を進めた。 ②学習支援、読書活動を推進。	①②地域住民が英検・漢検の補助、読み聞かせ、地域交流講座、あいさつ運動、施設整備等の取組に参加することにより、学校への関心、地域連携を深めることができた。	①②より効果的な地域人材の活用と協働の推進及び地域との協働による生徒の郷土愛の向上。	①②運営委員会だより、ホームページの活用による情報発信を行い、更なる地域連携の推進。
平成26年度	第五小学校	11回	①児童の地域行事への参加。 ②地域防災訓練の実施。	①地域の取組が実施される際には、教員からアナウンスを行ったことで、多くの児童が参加することができた。 ②防災意識を高めることができた。	①児童が地域の行事に参加したくても、保護者が理解を示さないことが少なくなかった。 ②地域防災訓練は、学校と地域とで開催時期や内容が分かれてしまったので、合同での開催が課題である。	①地域の行事へ参加する意義や良さについて、児童はもちろん保護者にも啓蒙していく必要がある。 ②地域防災訓練は、学校と地域がスムーズに連携していけるよう、計画を十分に検討していく必要がある。
	清水小学校	10回	①子どもの安全・安心のためのスクールガード養成講習会の実施。 ②学校便り、学校運営協議会便り、学校HP等で地域運営学校について保護者、地域住民に周知を行った。	①スクールガード養成講習会の開催により、学校安全ボランティアだけでなく、保護者としても子供たちの安全について見守っていこうという意識が少しずつではあるが、高まってきた。 ②学校の様子や取組を紹介することで、地域運営学校について理解を深めることができた。	①保護者を中心に新しいメンバーが少しずつ増えたが、このメンバーをいかに継続させ、新たなメンバーを増やしていけるかが課題である。 ②地域運営学校にかかわる人の輪を広げる活動の充実。	①新しいメンバーを継続させるため、PTAと連携して継続方法、メンバーを増やす方法について検討していく。 ②学校便り、学校運営協議会便り、学校HPなどでより積極的な情報発信を行うことで、学校にかかわる人の輪を広げ、子どもと関わる活動を充実させる。
	宇津木台小学校	11回	①地域人材による農業体験、昔遊び、茶道体験、俳句教室、英語体験などの学習支援の実施。 ②あいさつ運動の実施。	①体験的な学習活動の充実を図ることができた。 ②地域の方々に、普段もあいさつできる児童が増えた。	①地域人材を活用して、子どもたち自身が地域への愛着や地域理解を深めていけるための活動の工夫をさらに進めていくことが課題である。 ②あいさつ運動は、校内では充実させることができたが、保護者や地域を巻き込んだ取り組みまでは至らなかった。	①総合的学習の時間の地域学習について意見交換し、地域人材の活用、地域学習の充実を図る。 ②保護者・地域住民と連携したあいさつ運動及び青少対と連携した地域清掃活動により、地域で育つ意識を高める。
	弐分方小学校	9回	①広報誌「にぶっこみゅこみゅ」の発行（年3回発行、地域町会・自治会にも配布）。 ②「にぶっこ応援ボランティア」名簿の作成（教員へ希望の調査、募集申込書の作成）。	①広報誌の発行により、保護者・地域住民に地域運営学校をアピールできた。 ②ボランティア名簿の作成により、地域の支援ボランティアの現状と教職員のニーズが把握できた。	①②地域運営学校の趣旨が保護者・地域住民に十分理解されていないこと。	①②地域運営学校という事を保護者・地域により一層発信し、理解を深め、関わる人を増やす。

		開催回数	協議及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成26年度	由井第三小学校	12回	①段ボールハウスづくりや炊き出し訓練などを含む避難所宿泊体験「学校に泊まろう」を、おやじの会や地域の消防関係者との連携により実施。 ②町会等の掲示板に毎月掲示するあいさつ標語の作成や、児童と一緒に教職員、保護者、地域住民一丸となって元気で明るい挨拶の実践に取り組んだ。	①実践による避難所体験訓練を行うことで、児童、保護者及び近隣住民の防災意識を一層高めることができた。 ②挨拶キャンペーン週間を開催するなど、児童の内面から交わす挨拶の励行に取り組むことができた。	①避難所の立ち上げについては、町会・近隣住民等との連携が課題である。 ②児童が校外でも保護者や地域住民に対し、主体的に挨拶ができること。	①避難所の立ち上げについては、町会・近隣住民等の実情を踏まえて、検討を行う。 ②児童が主体的に挨拶ができるように、指導・啓発を積み重ねていく。
	横山中学校	11回	①重点目標「地域を知り、学校を知る」の取組として、多くの生徒が地域行事にボランティアとして参加した。 ②学運協委員と教職員との交流面談の実施（年2回）。	①地域の方々から中学生ボランティアとしての活躍や、青少対行事において中学生による小学生支援が高く評価されたことで自己有用感の育成につながった。地域の一員としての自覚も芽生えてきた。 ②学運協委員と教職員が、素直な意見交換ができる雰囲気を作ることができた。	①地域行事に自発的に参加する生徒の育成。 ②主幹教諭の運営協議会への積極的な関わりや教職員と委員の交流面談を深化させ、学校改善の意見交換の場へと発展させていく必要がある。	①地域行事への中学生ボランティアの参加を継続する。 ②学運協委員と教職員との意見交換。
	川口中学校	11回	①地域住民から教育活動への理解と協力を得る活動として、学校施設を地域に開放し、教養講座を実施。 ②学校支援ボランティアのニーズを把握するため教職員にアンケートを行うとともに、生徒会からも聞き取りを実施した。	①地域住民が学校に来校する機会が増え、あいさつが励行されることで、地域住民と生徒の距離が近くなり、地域の一員という意識が高まった。 ②学校支援ボランティアのニーズを把握することができた。	①教養講座の継続的な実施。 ②学校支援の充実を図る活動について、具体的内容の検討に至らなかった。	①②地域の部屋の整備を進め、ボランティア募集チラシを掲示することで地域の教育支援者の情報を集め、活用に向けた活動を進める。